

## 一九九一年出土の木簡

### 概要

本号には、昨年の本会研究集会で報告された「一九九一年木簡出土遺跡」を中心に、四五遺跡から出土した木簡の釈文・出土遺構などを掲載した。型通りではあるが、発掘調査、遺物整理・保管などご多忙にもかかわらず、ご協力いただいた関係機関の方々に心からお礼申し上げる次第である。

さて、本号掲載の木簡の出土遺跡及びその出土木簡は、「木簡出土遺跡一覧」の通りである。出土遺跡は重複もあるが、古代が二〇、中世は二一、近世が八である。しかも、出土点数は古代より中世・近世が多い。古代では、藤原宮が二三八点、藤原京右京五条四坊が三七点、新潟県八幡林遺跡が三〇点以上、佐賀県城原三本谷南遺跡が一三〇点以上であるが、そのほかは一桁の出土が圧倒的である。

一方、中世・近世では、平城京左京三条三坊三坪の約一万点を筆頭に、大坂城下町跡、群馬県世良田諷訪下遺跡、宮城県瑞巖寺境内遺跡で一〇〇点以上である。木簡の出土は偶然に支配される側面があ

るが、このような傾向は今後も予想できる。

さて、出土木簡や遺跡の内容を概観しよう。

まず、都城の木簡は、藤原宮・京、平城京と長岡京に出土があった。

藤原宮では、東方官衙・西大溝・南面内濠から出土しており、南面内濠の検封木簡が注目される。裏面に「栗道宰熊鳥」とあり、差出所と推定される。類例を収集し、機能の如何を検討する必要がある。

藤原京では、下ツ道東側溝から三七点が出土し、「坂田<sub>〔評史〕</sub>」や「評史」の文字がある。評史は、伊場木簡に「□評史川前連」とあり、最古の呪符木簡や興味深い貢進物付札もある。さらに、多量の木製祭祀具や金属製人形・夾紵箱も発見され、京極大路と東側溝の性格を示唆している。

平城京では、平城京左京三条一坊十・十五・十六坪が注目される。この地域は平城宮にすぐ南接し、十五・十六坪は一体で、「内<sub>〔医寮〕</sub>」と墨書された木簡が出土し、建物配置や軒瓦から「宮外官衙」と想定される。また、十坪では流路が発見され、「西嶋」の文字が出土

木簡出土遺跡一覧

遺跡名	所在地	点数	木簡の年代	遺跡の性格
平城京跡	奈良県奈良市	21	古代	都城
平城京左京三条三坊三坪	"	約1万	中世	都城・河道
※ 平城京右京三条二坊三坪	"	4	古代	都城
藤原宮跡	奈良県橿原市	238	"	宮殿・官衙
藤原京右京五条四坊	"	37	"	都城
※ 丹切遺跡	奈良県榛原町	3	"	遺物散布地
長岡京跡(1)	京都府向日市	約25	古代・中世	都城
長岡京跡(2)	京都府長岡京市	4	古代	"
※ 中海道遺跡	京都府向日市	1	中世	集落
※ ○勝龍寺城跡	京都府長岡京市	1	"	郭
平安京跡・旧二条城跡	京都府京都市	18	近世	屋
○鳥羽離宮跡	"	13	中世・近世	宮
大坂城跡	大阪府大阪市	11	古代・近世	城郭・城下町
大坂城下町跡	"	291	中世・近世	集落・城下町
※ 喜連東遺跡	"	1	中世	村落
平野環濠都市遺跡	"	5	近世	環濠都市・陣屋
※ ○植附遺跡	大阪府東大阪市	4	中世	集落
袴狭遺跡	兵庫県出石町	7	古代	官衙
※ 鴨田遺跡	滋賀県長浜市	1	中世	集落
※ 六大B遺跡	三重県津市	1	古代	官衙
※ 安養寺跡	三重県二見町	8	中世	寺院
※ ○宮の西遺跡	三重県四日市市	4	古代	明館
赤堀城跡	"	1	中世	不城
※ 梶子遺跡	静岡県浜松市	12	古代	集落・官衙
城之内遺跡	岐阜県岐阜市	1	中世	集落・居館
※ 二本柳遺跡	山梨県若草町	5	"	水田・寺院
※ ○二之宮宮東遺跡	群馬県前橋市	17	近世	寺院・居館・集落
※ ○安養寺森西遺跡	群馬県尾島町	6	"	集落・畑
※ 世良田諏訪下遺跡	"	439	中世	集落・墓・生産
小茶円遺跡	福島県いわき市	1	古代	集落・水田
※ 番匠地遺跡	"	2	中世	水田・河川
※ 瑞巖寺境内遺跡	宮城県松島町	約170	古代	寺院
八幡林遺跡	新潟県島村	30以上	中世	官衙
※ 綾ノ前遺跡	新潟県三条市	2	中世	集落
※ 馬場天神腰遺跡	新潟県柏崎市	5	"	"
※ ○乾遺跡	石川県松任市	1	近世	墓
※ ○宮永ほじ川遺跡	"	1	中世	集落・墳墓・館
※ 北高木遺跡	富山県大島町	1	古代	集落・祭祀
※ 山崎遺跡	広島県三次市	2	中世	集落
※ 中島田遺跡	徳島県徳島市	1	"	"
※ 久米窪田森元遺跡	愛媛県松山市	1	古代	集落・水路
觀世音寺跡	福岡県太宰府市	3	中世	寺院
※ 脇道遺跡	"	1	古代	集落
※ 城原三本谷南遺跡	佐賀県神埼町	130以上	"	河川・沼地
※ ○妻北小学校敷地内遺跡	宮崎県西都市	1	"	不明

※は木簡新出土遺跡 ○は1991年以前出土遺跡

した。左京三条一坊の左半は、平安京では神泉苑に相当する。先年、平安京の神泉苑も発掘調査されており、この地域の性格の究明が期待される。

長岡京では、推定東院跡の笏に「□風□」の文字がある。また、左京三条二坊九町には造営官司が想定されているが、民部省が役夫を進上したらしい木簡が出土した。

官衙では、新潟県八幡林遺跡が興味深い。すでに「郡司符」「沼垂城」の文字がある木簡が知られているが、あらたに三〇点以上が出土した。本号には一四点の釈文を収録したが、「数字十隻」の付札は鮭と想定される。「大領」「郡」の墨書き土器も出土し、遺構・遺物の総合的な検討が必要である。なお、新潟県では的場遺跡からも鮭・「隻」の木簡が発見されている(本誌一三号)。

本号に掲載のうちでは、集落あるいは集落と官衙の混合した遺跡にも留意すべき木簡が多い。

まず、静岡県梶子遺跡が注目される。梶子遺跡は周知の伊場遺跡や城山遺跡と一連と推定され、一九八一年に三点の報告がある。今回は伊場遺跡の大溝の延長部分から出土し、干支年紀の木簡には七世紀後半の可能性がある。また、「神名の系譜」かと推測される記載があり、今後の考察が期待される。

兵庫県袴狹遺跡では、本誌一三・一四号に引き続き木簡が出土した。今回の木簡も興味深く、「調布・史生」や「質」の文字があり、

建物群とその南限の水路も発見された。以前の「禁制」木簡・「皇后宮税」と建物遺構、さらに周辺の砂入遺跡・島遺跡と、この地域の古代史を叙述する素材は豊富となつた。

本号では、地域の出舉のあり方を検討しうる木簡を掲載している。富山県北高木遺跡では「本利」などの木簡が出土し、「束」字は茨城県鹿の子C遺跡の漆紙文書と共通の書体である。また、「介」の墨書き土器や転用硯も共伴している。福島県小茶円遺跡からは、大同元年の年紀をもち、「郷名十人名十正税」の記載のある〇五一型式の木簡が発見された。ここは陸奥国磐城郡磐城郷にあたるが、墨書き土器に「石木太」「厨」などもある。この「付札」の使用のあり方など、考察すべき課題が多い。

近年、出舉木簡の増加が目立っている。鹿の子C遺跡や秋田城跡の漆紙文書を筆頭に、埼玉県小敷田遺跡では表裏に本利を加算した木簡が出土し(本誌一三号八六頁)、宮城県田道町遺跡C地点では延暦十一年の出舉と推定される歴名木簡がある(本誌一四号)。漆紙と木簡の機能の相違など、興味深い。

一方、中世木簡が大量に一括出土している。

佐賀県城原三本谷南遺跡は一一〇一二世紀であるから、通例の時期区分では古代であるが、出土木簡は「中世」的である。河川状遺構から、一三〇点以上の卒塔婆が発見された。追善回向や逆修に使用され、供養ののちセットで廃棄などされたらしい。今後、木簡の

時代区分では、どの時期に画期があるのか、検討する必要がある。

平城京左京三条三坊の佐保川旧河道と氾濫砂層から、約一万点の柿経・笛塔婆が出土した。これには二束以上の法華経がある。また、群馬県世良田諏訪下遺跡では四三九点、宮城県瑞巖寺境内遺跡でも一五四点の塔婆が出土している。

また、山梨県二本柳遺跡ではほぼ完全な中世の木棺が発見され、墨書もあった。中世木簡により、中世宗教の多様な側面の解明が可能である。

近世木簡のうち、大坂城下町跡では魚の荷札木簡や魚の骨・鱗が出土し、骨などと木簡記載の魚名とが一致した。大阪府平野環濠都市遺跡では、古河藩平野陣屋あての荷札木簡が発見され、宛名の人名が幕末の宗門人別帳とやはり一致した。木簡がいかに史料として優秀かを実証している。

本号掲載の木簡の一部を紹介した。この概観は私見によったにすぎず、すべての木簡が貴重な文化財である。なお、九二年とそれ以前に木簡が出土した遺跡のうち、奈良県西橋遺跡、平安京左京三条三坊十三町、同左京九条二坊十五町、同御土居濠跡、京都府高内親谷窯跡、兵庫県赤穂城本丸跡、神奈川県佐助ヶ谷遺跡、新潟県春日山城跡、同伝至徳寺跡、石川県横江莊家跡、宮城県山王遺跡、山形県月記遺跡、広島県尾道遺跡、佐賀県姉川城跡は本号に収録できなかつた。このほか、いまだ掌握できない遺跡もあるうかと思われる。

本会ではそれらを補足したいと考えております、関係機関および読者諸氏に情報提供などのご協力を切にお願いする次第である。

(西山良平)